有島武郎全集

第一卷

大正十三年三月廿五日印刷
大正十三年四月五日發行　（非賣品）

著者　有島武郎

第一卷

發行人　東京市牛込區神樂町二丁目十一番地　足助素一

印刷人　東京市神田區美土代町二丁目一番地　島連太郎

印刷所　東京市神田區美土代町二丁目一番地　三秀舍

發行所　東京市牛込區神樂町二丁目十一番地　叢文閣
電話　牛込　二五七三番
振替口座東京　四二八八九番

有島武郎全集　第一卷

目次

遠友夜學校校歌……一
花語り……七
人生の歸趣……一一
札幌農學校校歌……二一
鎌倉幕府初代の農政……二三
五日集……一一五
札幌獨立教會……一二九
獨旅短信……一六三
草いきれ……一七五

イブセン雜感……一九九
ブランド……二〇七
かん〳〵蟲……二七一
米國の田園生活……二九一
札幌獨立基督教會沿革……三〇一
日記より……三二五
半日……三四九
二つの道……三六九
老船長の幻覺……三七七
も一度「二つの道」に就て……三九七
叛逆者……四〇七
泡鳴氏への返事……四二五
「お目出度人」を讀みて……四三一
同級生……四三九
ワルト・ホヰットマンの一斷面……四四九

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

草の葉……四六三
新しい畫派からの暗示……四九九
An Incident……五〇五
內部生活の現象……五一七
幻想……五三九
宣言……五四七

有島武郎全集　第一卷　目次　終

遠友夜學校校歌

一

澤なすこの世の樂しみの
　樂しき極みは何なるぞ
北斗を支ふる富を得て
　黄金を數へん其時か
オー　否　否　否
　樂しき極みはなほあらん。

二

劍はきらめき彈はとび
　かばねは山なし血は流る
戰のちまたのいさほしを
　我身にあつめし其時か
オー　否　否　否
　樂しき極みはなほあらん。

三

黃金をちりばめ玉をしく
　高どのうてなはまばゆきに
のぼりて貴き位やま
　世にうらやまれん其時か
オー　否　否　否
　樂しき極みはなほあらん。

四

樂しき極みはくれはどり
　あやめもたへなる衣手か
やしほ味よきうま酒か
　柱ふとしき家くらか
オー　否　否　否
　樂しき極みはなほあらん。

五

正義と善とに身をさゝげ
　慾をば捨てて一すぢに
行くべき路を勇ましく
　眞心のまゝに進みなば
アー　是れ　是れ　是れ

是れこそ樂しき極みなれ。

六

日毎の業にいそしみて
心にさそふる雲もなく
昔の聖　今の大人（うし）
友とぞなしていそしまば
アー　是れ　是れ　是れ
是れこそ樂しき極みなれ。

七

樂しからずや天の原
そら照る星のさやけさに
月の光の貴さに
心をさらすその時の

アー　是れ　是れ　是れ
　是れこそ樂しき極みなれ。

八

そしらばそしれつゞれせし
　衣をきるともゆがみせし
家にすむとも心根の
　天にも地にも恥ぢざれば
アー　是れ　是れ　是れ
　是れこそ樂しき極みなれ。

九

衣もやがて破るべし
　ゑひぬる程もつかの間よ
朽ちせでやまじ家倉も

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

唯我心かはらめや
アー　是れ　是れ　是れ
是れこそ樂しき極みなれ。

（一八九八年作）

花語り

歌の組

霞もにほふ春の野に
雲雀と蝶を友として
さまよひ遊ぶ稚兒の
何をか花と語るらむ。

稚兒

山にも野にも一面咲いた
花よ〳〵きれいな花よ
どうして君は春來る毎に

にほひも清く色美しく
そよ吹く東風に咲き綻びて
雲雀や蝶を樂しませるの？

花

めづる我友聞きねかし
野もせ山もせ冬枯の
寂しきさまを見そなはし
神は我等を地に送り
君ともろとも世の人の
惱み爭ひかなしみを
愛と平和と歡喜(よろこび)に
かへよと仰せ給ひけり。

稚兒

それなら君はいつ〳〵までも
きれいに咲いて僕等とともに
唱ひて遊び遊びてうたひ
秋風ふくも萎まぬはずを
なぜちり〴〵に散り亂されて
雲雀や蝶を悲しませるの？

花

いとしの友よさにあらず
我等散らずば來む春を
去年にもまして美はしく
裝ふ花はよもあらじ
あしたに咲いて夕には
爐に投げらるゝ我にさへ
榮光を示す大神の

深き聖旨をあふげかし。

全部合唱

咲くのも散るのも神のまゝ
はげみ遊ぶも神のまゝ
いとしのわらべに悟りけり
ゆかしの花に悟りけり。

（一八九九年作）

人生の歸趣

（獨立と服從）

人は終局に於て、到底曖昧なる地に立つを肯ぜざる本能を有す、吾人の有する結論の語は、唯「然り然り否な否な」なる、然定と否定との何れかに歸せざる可らず、自餘の模稜なる字句、之れを反する千萬なるも、吾人の良心は決して滿足せざるなり。

吾人は此に於て一の問題に遭遇すべし、何ぞや、人は獨立すべき者なるや、服從すべき者なるや、是れなり、此極めて緊要なる問題は、今や全く衆人の足下に蹂躙せられ、或は迂遠虛蒙、半顧の値だになき者とし、或は平凡尋常、問題として攻究するの要なき者とす、何等の近眼ぞ、何等の無謀ぞ、「命令する能はず服從する能はざる者は、無用の長物なり」とは、先人の唱道する所、然り此問題を解釋せずして、人類の立脚は極めて曖昧なり、極めて模稜なり、かゝる渾沌たる基礎の上には、空想の蜃氣樓だに建設し得可らずと知らずや。

然らば我は服從す可きか、獨立すべきか。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com